

令和5年度 長浜市民意識調査 速報値報告書（概要版）

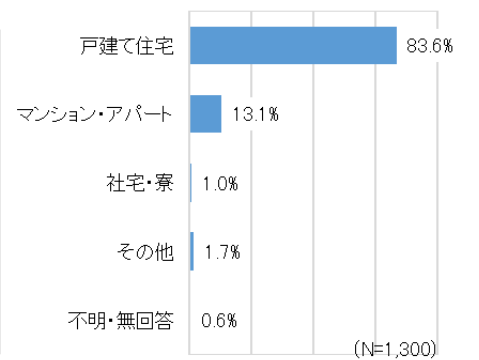
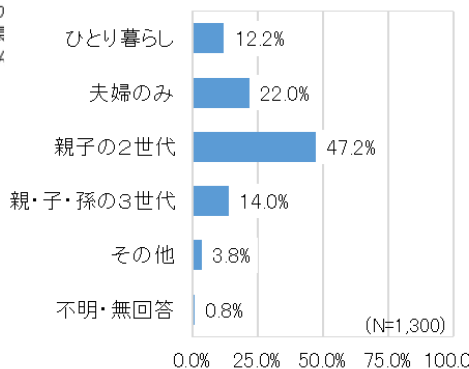
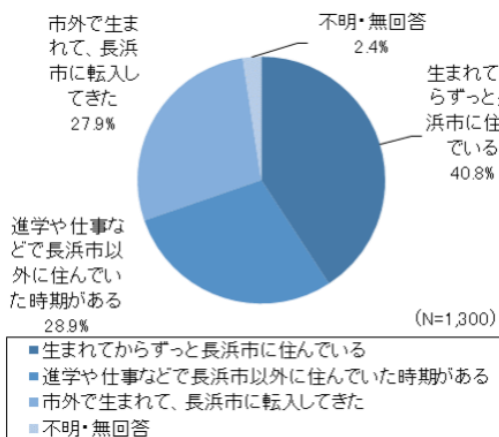
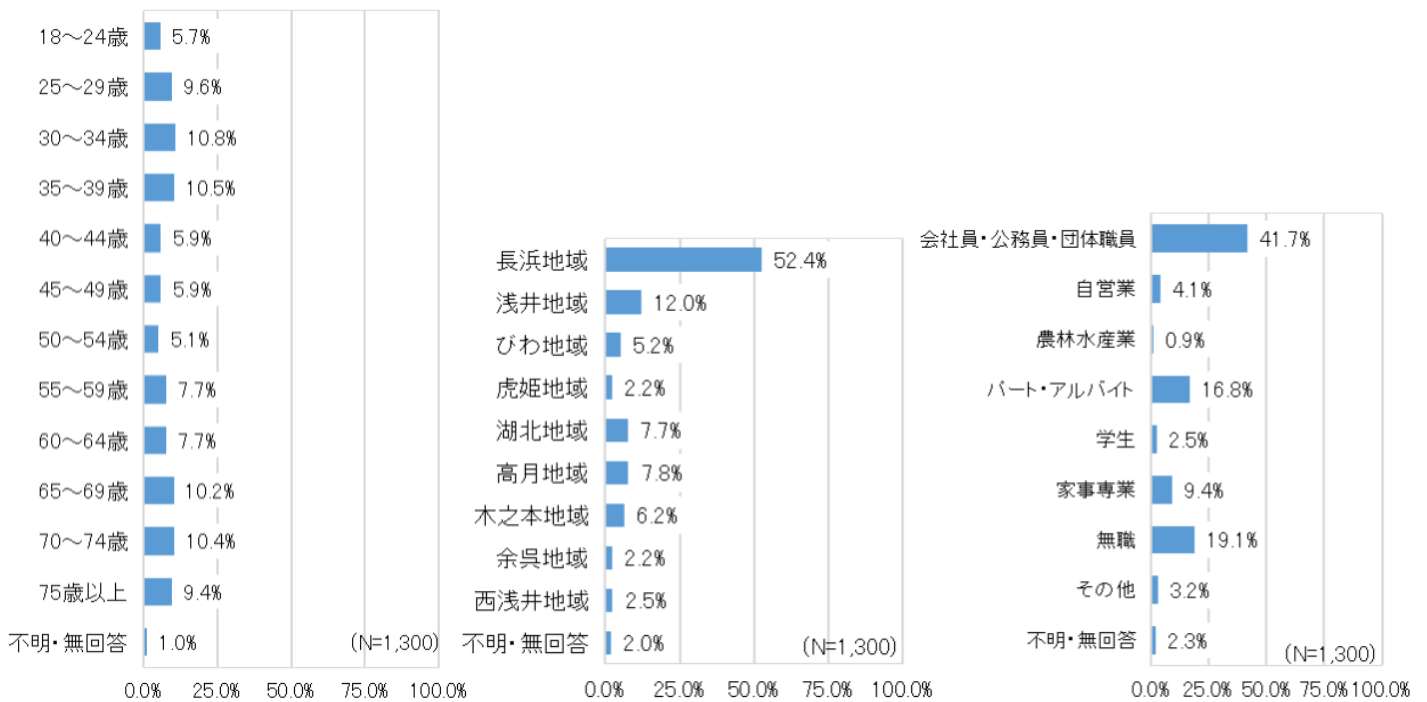
長浜市では、市が行っている様々な取組について市民の皆さまに「満足度」や「重要度」をおたずねするとともに、社会が変わっていく中で、長浜市がこれから進むべき方向についてのお考えをお聞きし、今後の取組を考える上での基礎とすることを目的に、市民意識調査を実施しております。

令和5年度は、調査項目として「長浜市の住みやすさ」と「デジタル化について」、及び「市が行っている58施策の満足度と重要度」、「しょうがい福祉に関する意識」、「健康づくりの現状」、「スポーツについて」について18歳以上の市内居住者4,000人を対象に調査しました。

今回、調査結果（5月31日時点速報値）をまとめた報告書を以下のとおりお示しします。

■調査の概要

- ・調査対象：市内に居住する18歳以上の方4,000人
- ・抽出方法：住民基本台帳から各地域の人口割合に応じて無作為抽出
- ・調査方法：郵送によるアンケートの配布、郵送またはインターネットでの回収
- ・調査時期：令和5年4月21日～5月10日
- ・回収結果：有効回収数1,300件（回収率32.5%）内、インターネット回答240件
- ・回答者属性：男性43.0% 女性55.0% 答えたくない1.2% 不明・無回答0.8%



調査結果のポイント

調査項目① 住みやすさ 長浜市の住みやすさについて、住み心地がよいと思う人は約9割でした

- 長浜市の「住み心地」について、よいと思う(「とてもよいと思う」と「よいと思う」の合計)と回答した人は約9割(90.6%)となり、昨年度よりは減少したものの高い水準を維持しています。また、長浜市での居住継続希望の有無について、「住み続けたい」(「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計)と回答した人も約9割(87.0%)となりました。

● 長浜市の「住み心地」についてどう思いますか

	令和4年度	令和5年度
とてもよいと思う	8.8%	12.6%
よいと思う	79.6%	78.0%
悪いと思う	10.8%	9.0%
とても悪いと思う	0.8%	0.4%
よいと思う(計) <small>「とてもよいと思う」「よいと思う」の合計</small>	88.4%	90.6%
悪いと思う(計) <small>「悪いと思う」「とても悪いと思う」の合計</small>	11.6%	9.4%

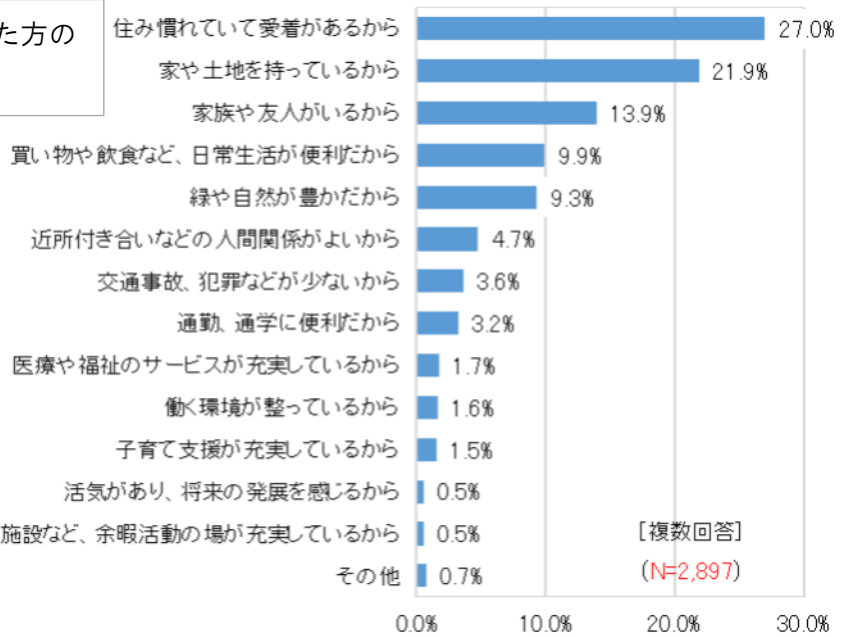
令和4年度調査結果(N=961) 令和5年度調査結果(N=1,300)
※速報値

● 長浜市にこれからも住み続けたいと思いますか

	令和4年度	令和5年度
住み続けたい	43.0%	45.1%
どちらかといえば住み続けたい	44.0%	41.9%
県内の他市町に転居したい	7.0%	5.4%
県外に転居したい	7.0%	7.6%
住み続けたい(計)	87.0%	87.0%
転居したい(計)	11.4%	13.0%

令和4年度調査結果(N=961) 令和5年度調査結果(N=1,300)
※速報値

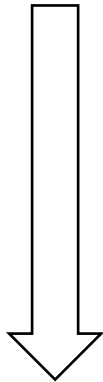
住み心地が「よいと思う」と答えた方の選んだ理由



年齢階層別

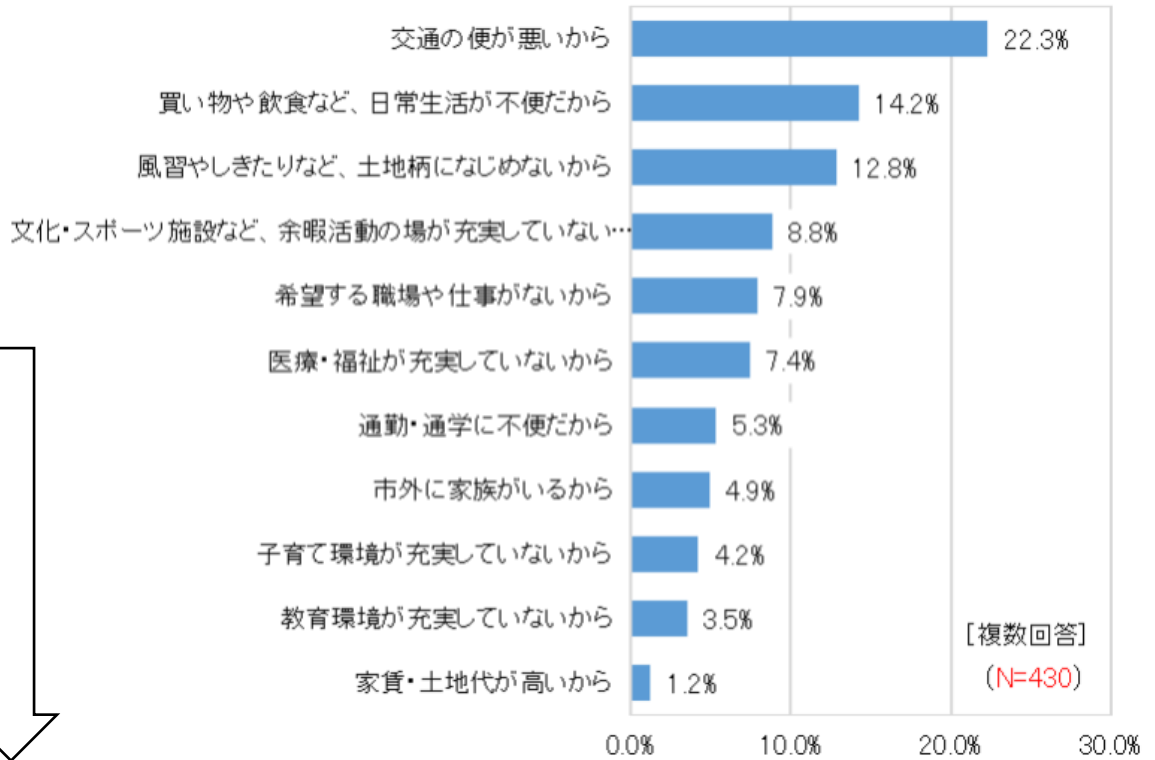
塗りつぶし部分は各年齢の上位4項目

- 1位 (オレンジ)
- 2位 (黄色)
- 3位 (緑)
- 4位 (青)



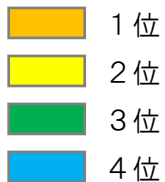
年齢別	住み慣れていて愛着があるから	家や土地を持っているから	家族や友人がいるから	買い物や飲食など、日常生活が便利だから	緑や自然が豊かだから	近所付き合いなどの人間関係がよいから	交通事故、犯罪などが少ないから	通勤、通学に便利だから	医療や福祉のサービスが充実しているから	働く環境が整っているから	子育て支援が充実しているから	文化や福祉のサービスが充実しているから	活気があり、将来の発展を感じるから	その他
18～24歳	32.8	6.9	23.3	5.2	12.9	2.6	6.9	4.3	0.9	1.7	0.9	0.0	1.7	0.0
25～29歳	26.1	14.6	19.2	11.5	8.0	2.3	2.7	5.0	1.5	4.6	1.5	0.8	1.9	0.4
30～34歳	25.3	20.4	19.1	8.9	8.2	2.3	3.6	4.6	1.3	1.6	3.3	0.3	0.0	1.0
35～39歳	20.0	22.6	17.7	9.4	7.4	2.9	4.2	5.8	0.6	2.3	4.5	0.6	0.6	1.3
40～44歳	24.8	24.8	13.1	5.2	13.1	4.6	2.0	4.6	0.0	2.0	3.9	0.7	0.0	1.3
45～49歳	26.8	21.4	14.9	9.5	8.3	2.4	2.4	4.8	1.2	3.0	0.6	1.8	0.6	2.4
50～54歳	27.8	23.8	18.5	5.3	7.9	4.6	4.0	3.3	1.3	2.6	0.7	0.0	0.0	0.0
55～59歳	31.8	23.5	12.0	7.4	9.7	4.1	2.3	6.5	0.9	0.5	0.0	0.5	0.5	0.5
60～64歳	29.4	29.4	8.7	11.7	7.4	4.3	3.5	2.6	1.3	0.4	0.4	0.9	0.0	0.0
65～69歳	27.6	25.8	8.4	13.5	9.3	5.4	3.6	0.6	2.1	1.2	0.6	0.6	0.3	0.9
70～74歳	27.7	22.0	10.7	13.1	11.3	7.9	3.0	0.3	3.4	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0
75歳以上	28.7	21.2	9.4	10.1	10.1	9.8	4.9	0.3	3.6	0.3	0.3	0.0	0.3	1.0

住み心地が「悪いと思う」と答えた方の選んだ理由



年齢階層別

塗りつぶし部分は
各年齢の
上位4項目



	交通の便 が悪いから	買い物や 飲食など、日常 生活が不便だから	風習やし きたりなど、土地 柄になじめないから	文化・ス ポーツ施 設など、余暇活動 の場が充 実してい ないから	希望する 職場や仕 事がない から	医療・福 祉が充実 していな いから	通勤・通 学に不便 だから	市外に家 族がいる から	子育て環 境が充実 していな いから	教育環境 が充実し ていいな いから	家賃・土 地代が高 いから	その他
18～24歳	26	15	11	2	17	0	11	4	2	4	0	9
25～29歳	22	14	3	6	19	8	3	8	5	5	2	8
30～34歳	18	16	10	20	8	8	2	4	6	8	0	2
35～39歳	14	14	12	10	5	12	7	2	12	2	2	7
40～44歳	17	19	8	8	8	14	6	3	8	3	0	6
45～49歳	20	11	26	3	0	6	6	6	0	3	0	20
50～54歳	23	9	27	5	0	9	9	5	0	5	0	9
55～59歳	29	10	19	7	7	7	7	3	7	0	3	3
60～64歳	27	15	15	9	6	6	3	9	0	3	3	6
65～69歳	32	9	23	14	0	9	0	5	0	0	5	5
70～74歳	21	17	13	17	4	8	4	4	4	0	0	8
75歳以上	33	19	5	10	0	5	10	5	0	5	0	10

調査項目②

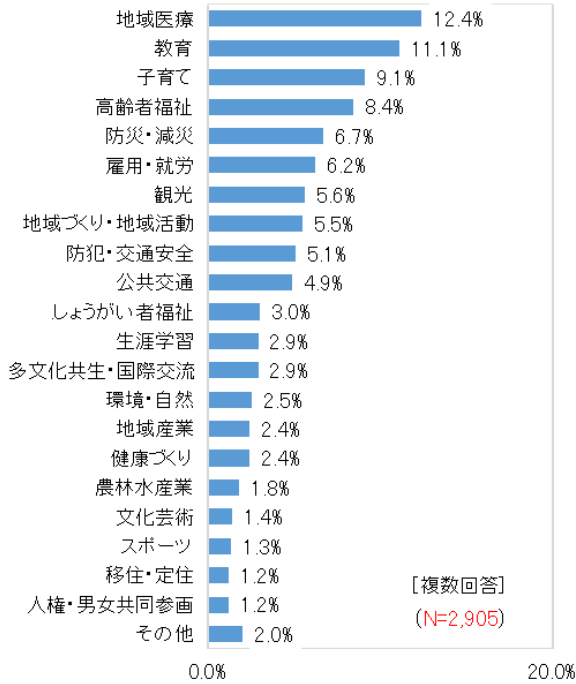
デジタル化について

デジタル技術の活用で最も向上を期待されている分野は「地域医療」であり、2番目に期待されている分野は「教育」でした。

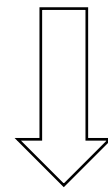
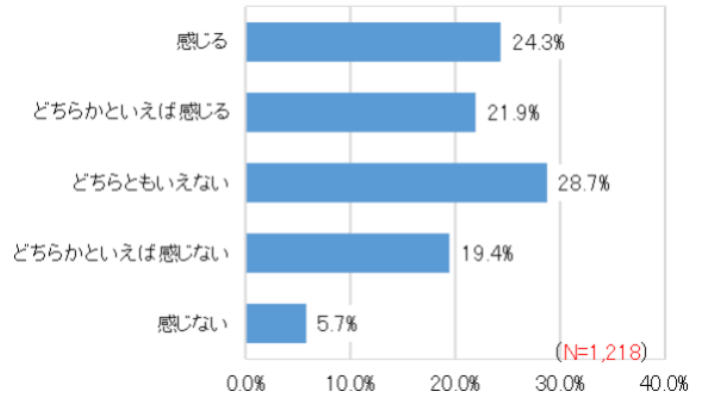
- デジタル技術の活用により、特にどの分野が向上することを期待するか聞いたところ、最も意見が多かったのは「地域医療」(12.7%)となり、次に多かったのは「教育」(11.3%)となりました。他の意見は全て10.0%以下となり、全体的に意見が割れました。

- 「地域医療」のデジタル活用の形としては、“診療予約のオンライン化”“オンラインでの診療、薬の処方・健康相談”という意見が多く見られました。
- 一方、デジタル技術が広がり、当たり前になっていくことに対しては約半数（46.2%）が「不安を感じる」と回答され、高齢になるにつれて「不安を感じる」割合は高くなっていく傾向が見られました。
- 「不安を感じる」理由としては、“技術についていけない、取り残される”“個人情報の漏洩”“人とのつながりが希薄化してしまう”という意見が多く見られました。

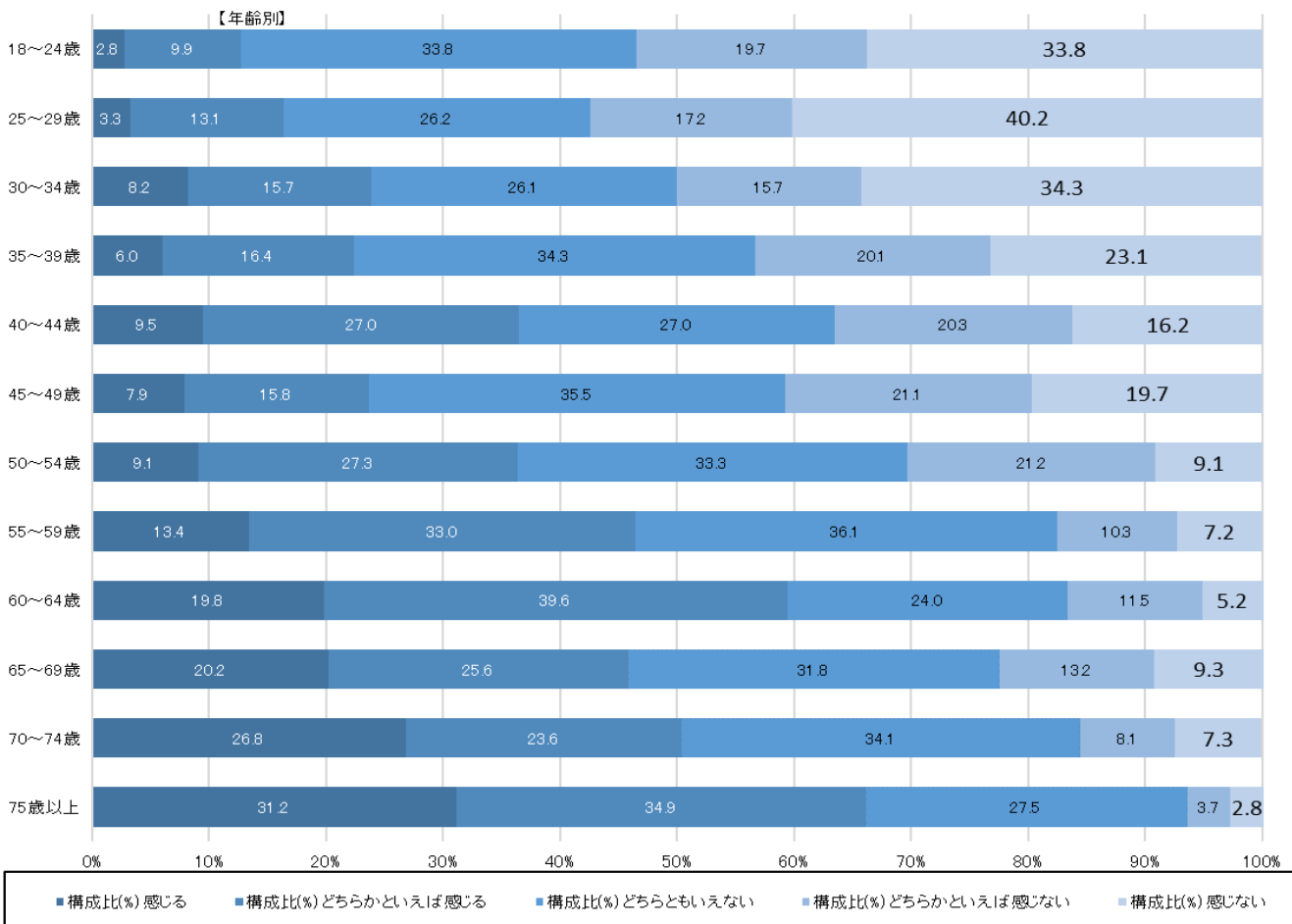
デジタル技術の活用で向上を期待する分野



デジタル技術の広がりに不安を感じるかどうか



年齢階層別



調査項目③
市政の満足度と重要度

58 の施策のうち、満足度で最も高いのは「伝統・歴史・文化の継承」、重要度では「防犯対策」でした

■満足度

- ・ 施策への満足度では、昨年度から 0.11 ポイント上がり「伝統・歴史・文化の継承」が 1 位となりました。
- ・ 上位 3 施策は順位の変化こそあるものの、昨年度と同じ施策でした。4 位の「母子保健と子どもの医療サービス」は昨年度 9 位からの順位上昇となり、5 位の「人権を尊重する社会づくり」は昨年度 6 位からの順位上昇となりました。また、昨年度 4 位だった「交通安全対策」については、0.05 ポイント下がり 11 位となりました。
- ・ 昨年度と比べて順位の“上昇”が最も大きかったのは「地域が持つ魅力の発信と観光振興」（昨年度 33 位→19 位）となりました。一方、順位の“下降”が最も大きかったのは、「子育てにかかる経済的な負担の軽減」（昨年度 41 位→52 位）と「高齢者への介護や福祉のサービス」（昨年度 13 位→24 位）となりました。

■重要度

- ・ 施策への重要度では、「防犯対策」（昨年度同率 1 位）が 0.09 ポイント上がり 1 位となりました。推測されることとして、全国各地で強盗事件が多発していることから意識が高まったものと考えられます。
- ・ 1～5 位については、順位の違いはありますが昨年度と同じ施策が上位を占める結果となりました。
- ・ 昨年度と比べて順位の“上昇”が最も大きかったのは「小学校（義務教育学校）に入学するまでの教育の推進」（昨年度 40 位→23 位）となりました。一方、順位の“下降”が最も大きかったのは、「地球温暖化対策」（昨年度 22 位→36 位）となりました。

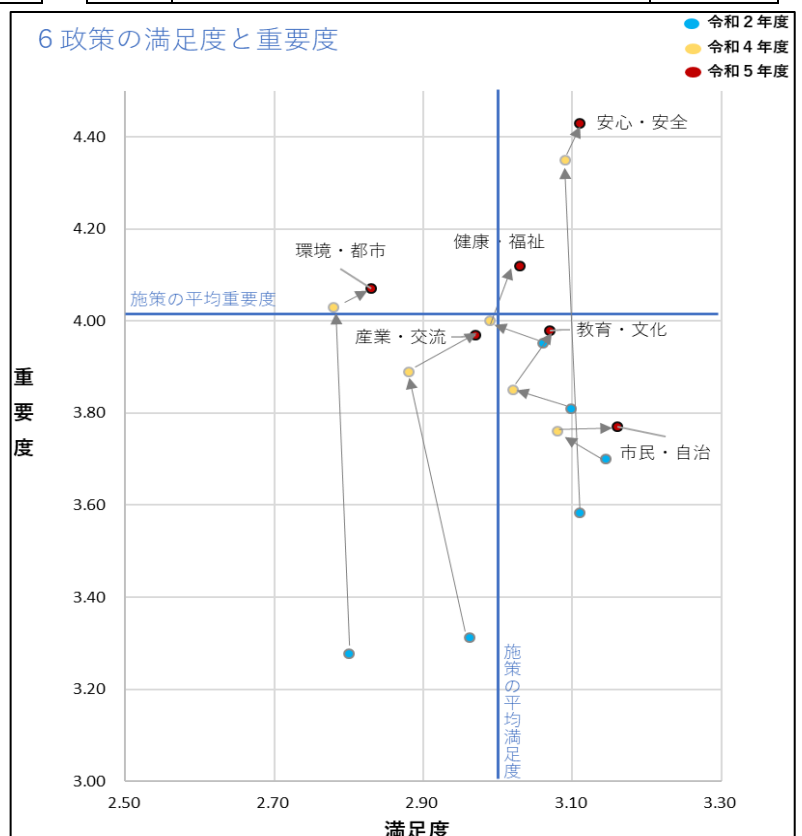
順位	満足度の上位 5 施策（5 段階評価）	
1 位	伝統・歴史・文化の継承	3.47
		3.36
2 位	健診などを通じた個人の健康づくりの推進	3.36
		3.36
3 位	美しい景観の保全と創出	3.33
		3.25
4 位	母子保健と子どもの医療サービス	3.31
		3.13
5 位	人権を尊重する社会づくり	3.27
		3.19

順位	重要度の上位 5 施策（5 段階評価）	
1 位	防犯対策	4.48
		4.39(1)
2 位	災害などに対する危機管理の体制	4.46
		4.39(1)
3 位	交通安全対策	4.43
		4.39(1)
4 位	地域医療体制の充実	4.36
		4.29(4)
4 位	地域による防災対策へのサポート	4.36
		4.24(5)

調査を行った 58 施策について長浜市総合計画に掲げる 6 政策毎に満足度と重要度を平均したところ、全般的に満足度・重要度ともに上昇していることがわかります。

「安心・安全」と「健康・福祉」は、「満足度」と「重要度」がともに平均値を上回っています。一方、「産業・交流」はいずれも平均値を下回っております。

令和 2 年度と比較してみると、「満足度」については、令和 4 年度で下降した数値が令和 5 年度で回復している傾向が見られます。

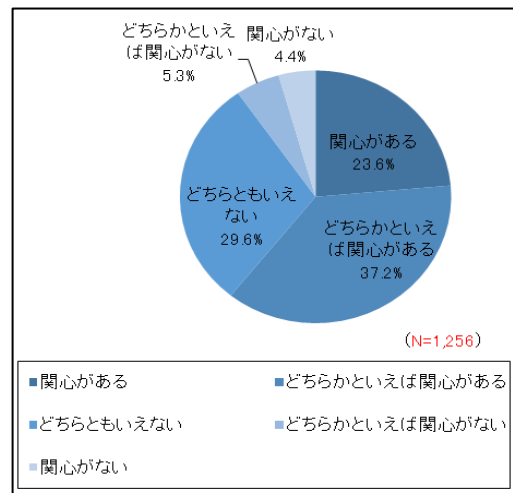
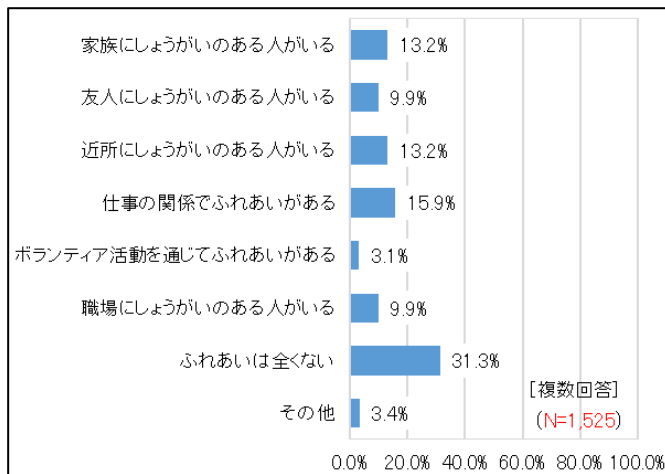


調査項目④

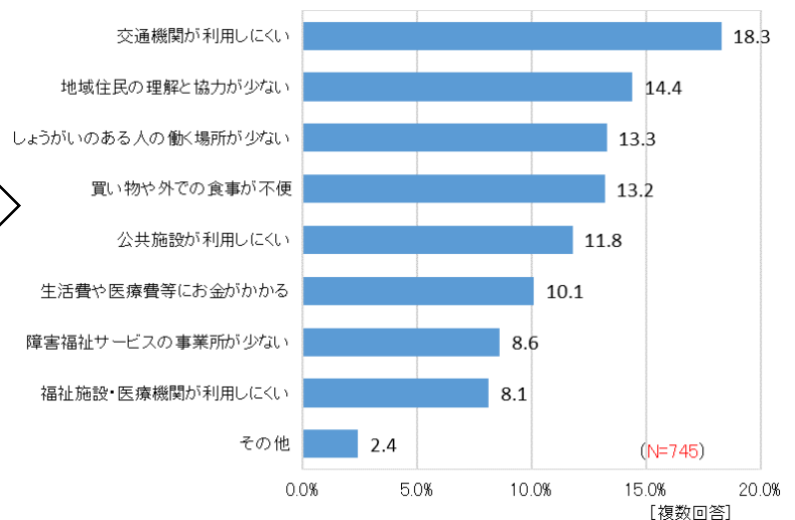
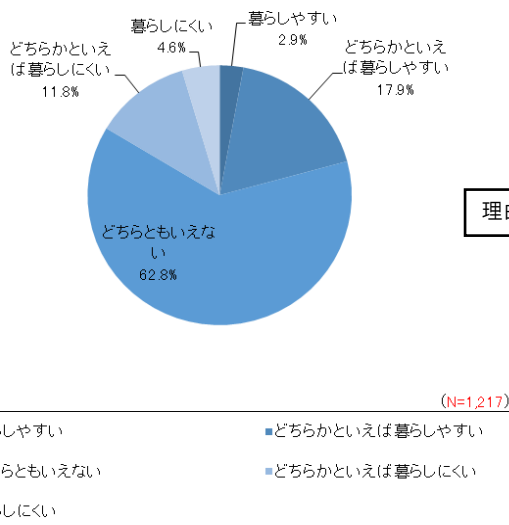
しょうがい福祉に関する意識について

しょうがいのある人とふれあう機会が全くない（31.3%）が最も多い一方で、しょうがいやしょうがいのある人の福祉について関心があると答えた方が6割を超えました

- 日常生活の中でしょうがいのある人とふれあう機会について、最も多かった回答は「ふれあいは全くない」（31.3%）となりました。
- しょうがいやしょうがいのある人の福祉について関心があるかどうかについて、関心がある（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）と回答した人は約6割（60.8%）となり、一方、関心がない（「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」の合計）と回答した人は約1割（9.7%）となりました。
- ふれあう機会を持つ人は少ないものの、関心は高いことがうかがえます。
- 長浜市は、しょうがいのある人にとって暮らしやすいかどうかについて、「どちらともいえない」という回答が全体の約6割（62.8%）を占め、暮らしやすい、暮らしにくいという回答はほとんど同じような割合となりました。
- 「4.どちらかといえば暮らしにくい」又は「5.暮らしにくい」と回答された方に理由をお聞きしたところ、最も多かった回答は「交通機関が利用しにくい」（18.3%）となり、次に多かった回答は「地域住民の理解と協力が少ない」（14.4%）となりました。



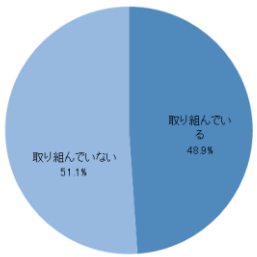
長浜市は、しょうがいのある人にとって暮らしやすいと思いますか。



調査項目⑤
健康づくりの現状について

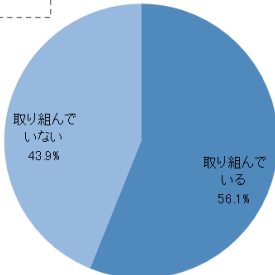
健康づくりの視点から「運動」「減塩」「野菜摂取」「禁煙」「受動喫煙」「適正飲酒」「歯磨き」「適度な休養」「定期健診」への取組をお聞きしました。

運動



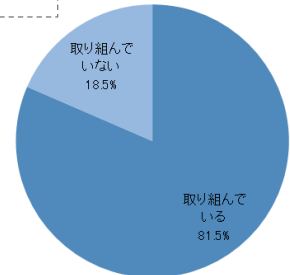
(N=1,232)

減塩



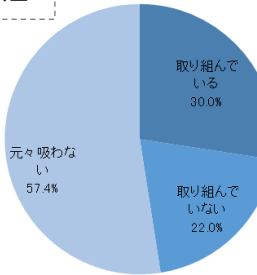
(N=1,245)

野菜摂取



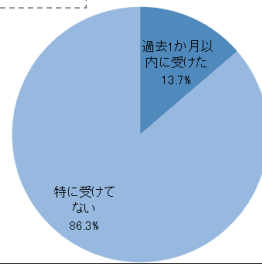
(N=1,257)

禁煙



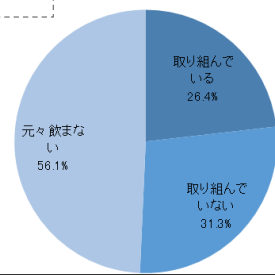
(N=1,237)

受動喫煙



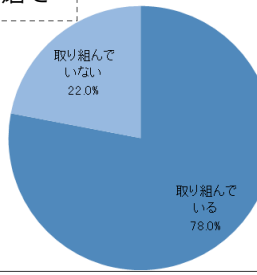
(N=1,161)

適正飲酒



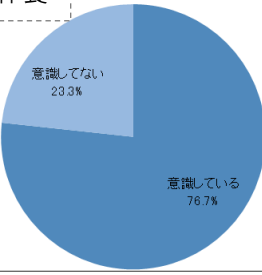
(N=1,202)

歯磨き



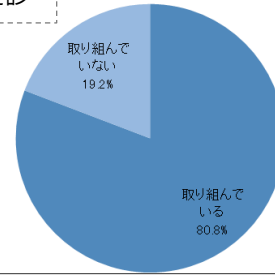
(N=1,230)

適度な休養



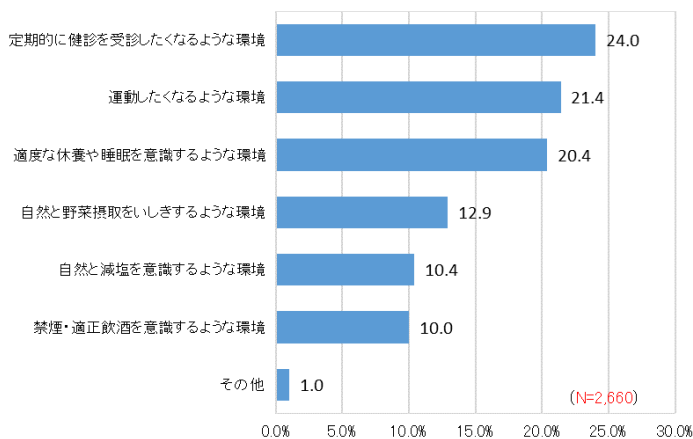
(N=1,226)

定期健診



(N=1,222)

- ・ 自然と、気軽に健康づくりにとりくめる（健康になる）市の取組みとして、どの分野の環境づくりに力を入れるべきかお聞きしたところ、最も多かった回答は「定期的に健診を受診したくなるような環境」（24.0%）となり、近い値として「運動したくなるような環境」（21.4%）、「適度な休養や睡眠を意識するような環境」（20.4%）が上位となりました。
- ・ 年齢階級別に見ると、若い人ほど「定期的に健診を受診したくなるような環境」の回答数が多い傾向が見られました。
- ・ また、高齢者になるほど、「運動したくなるような環境」の回答数が多い傾向が見られました。



	21.6	10.5	13.0	10.1	20.6	24
【性別】 全体(N=2,636)	21.6	10.5	13.0	10.1	20.6	24
男性(N=1,122)	22.1	10.4	13.6	10.4	22.1	21.3
女性(N=1,478)	21.0	10.6	12.4	9.9	19.6	26.5
答えたくない(N=30)	30.0	6.7	20.0	6.7	20.0	16.7
【年齢別】 18～24歳(N=120)	15.8	9.2	10.0	13.3	26.7	25
25～29歳(N=244)	16.0	9.0	9.8	13.5	25.8	25.8
30～34歳(N=279)	20.1	7.5	8.2	11.8	25.4	26.9
35～39歳(N=264)	17.8	6.4	10.6	10.6	28.4	26.1
40～44歳(N=161)	23.6	6.8	12.4	9.3	22.4	25.5
45～49歳(N=141)	25.5	7.1	12.8	5.7	22.7	26.2
50～54歳(N=132)	25.8	10.6	9.8	11.4	16.7	25.8
55～59歳(N=184)	22.8	10.9	12.5	9.8	17.9	26.1
60～64歳(N=233)	22.3	13.3	14.6	9.0	18.0	22.7
65～69歳(N=281)	23.1	11.0	15.7	9.3	15.3	25.6
70～74歳(N=315)	23.8	14.0	16.5	8.3	16.8	20.6
75歳以上(N=276)	23.6	15.9	18.5	9.8	14.1	18.1
【地域別】 長浜地域(N=1,380)	21.4	10.0	12.8	9.7	21.8	24.2
浅井地域(N=296)	20.9	9.8	12.2	12.2	18.6	26.4
びわ地域(N=135)	22.2	8.9	12.6	10.4	18.5	27.4
虎姫地域(N=51)	23.5	5.9	11.8	9.8	21.6	27.5
湖北地域(N=207)	17.9	13.5	14.0	9.7	18.4	26.6
高月地域(N=215)	23.7	12.1	14.4	9.8	17.2	22.8
木之本地域(N=168)	23.2	11.3	12.5	10.7	22.0	20.2
余呉地域(N=61)	26.2	8.2	18.0	3.3	19.7	24.6
西浅井地域(N=70)	18.6	15.7	7.1	12.9	22.9	22.9

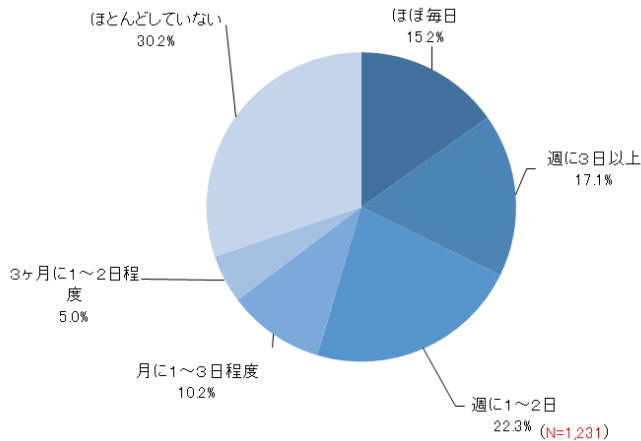
調査項目⑥

スポーツについて

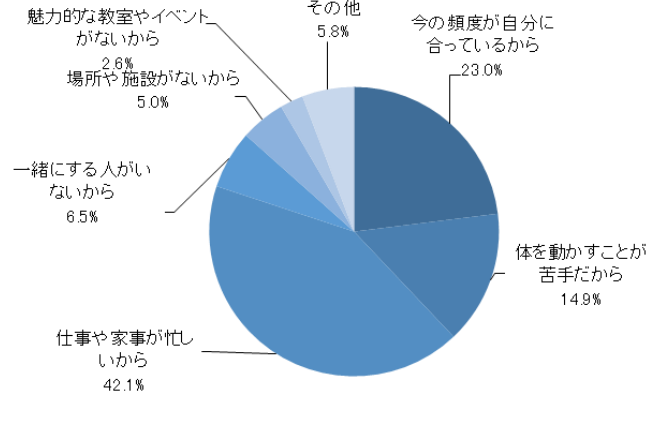
この1年間で、運動やスポーツを「ほとんどしていない」と答えた人が最も多かった一方、新型コロナウイルスの影響という意見は最も少ない結果となりました

- この1年間で、運動やスポーツ（体操やストレッチなどの軽い運動を含みます。）をどのくらいの頻度で行ったかについて、「ほとんどしていない」（30.2%）の回答が最も多かったものの、昨年度（39.1%）と比較して8.9%ほど数値が良化しています。また、「ほぼ毎日」「週に3日以上」「週に1～2日」と回答された方の合計は54.6%となり、昨年度の44.0%と比較して数値の上昇が見られます。

この1年間の運動・スポーツ頻度



運動やスポーツを行う頻度について、その理由



- 運動・スポーツの頻度の理由として、「仕事や家事が忙しいから」（42.1%）という意見がもっとも多く、運動やスポーツがしたくないということではなく、機会がなかなか得られないという現状が多いことがわかりました。
- また、運動やスポーツを行う手段として興味があるのはどれかという調査について、「身近なスポーツ施設で参加できるスポーツ教室」（39.8%）がもっとも多く“気軽に”参加できるような手段が望まれていることがわかりました。
- 運動やスポーツを行う手段として興味があるものについて、「スポーツを体験できるイベント」（40.0%）の回答が最も多い結果となり、昨年度の「身近なスポーツ施設で参加できるスポーツ教室」（35.5%）を超えて順位が変わりました。これは、新型コロナウイルス感染症の対策緩和による意識の変化と推測されます。

